

令和 6 年度 文京区障害者地域自立支援協議会

第 3 回就労支援専門部会

令和 7 年 2 月 6 日（木）

14 時 00 分から 16 時 00 分

文京シビックセンター 5 階 区民会議室 A

会 議 次 第

1 開 会

2 議 事

- (1) 第 20 回共生のための文京地域支援フォーラムについて
「しょうがいのある方のいろいろな働きかた」
- (2) 令和 6 年度文京区障害者地域自立支援協議会 全体会について
- (3) 就労選択支援事業について

【資料】

- ・ 第 20 回共生のための文京地域支援フォーラムについて・・・・・・・・・・ 【資料第 1 号】
- ・ 令和 6 年度文京区障害者地域自立支援協議会全体会のご案内・・・・・・・・・・ 【資料第 2 号】
- ・ 就労選択支援事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【資料第 3 号】

第20回共生のための文京地域支援フォーラム

講演会	第1部「精神障害のある方の働き方」 株式会社日新ウエルネス 第2部「知的障害のある方の働き方」 株式会社東京ドームファシリティーズ
企業パネル	区内11社にご協力を頂き、社内の障害者雇用の取り組みの状況や働いている様子を紹介するパネル展。
スライドショー	全26事業所の区内関係機関紹介スライドショーと当事者の方から働くことへの想いや希望、夢などのメッセージをご紹介します。
ハートフル工房 販売会	区内8事業所が出店。机上カーレットの体験会を開催した。

今後の活用について

第 20 回 共生のための文京地域支援フォーラム（2024. 11. 26）

『しょうがいのある方のいろいろな働き方』

アンケート集計

回答数 70 名

Q1：今回のフォーラムが開催されることをどこで知りましたか？

- 1 区報・掲示板⇒7 名
- 2 ポスター・チラシ⇒18 名
- 3 知人に聞いて⇒15 名
- 4 ホームページ（文京区）⇒1 名
- 5 ホームページ（その他）⇒0 名
- 6 Facebook・Twitter（文京区）⇒1 名
- 7 Facebook・Twitter（その他）⇒0 名
- 8 その他⇒32 名

（ハローワーク、大学の授業、パネル展示協力企業、作業所、銀杏企画ファースト、銀杏企画セカンド、本郷の森）

Q2：今回のフォーラムに参加してのご感想を教えてください。

大変良かった	49 名
良かった	18 名
普通	1 名
良くなかった	0 名
無回答	2 名

Q3：どんなことに興味を持ちましたか？

【大変良かった】

- ・ 今井さんが働かれている職場に何度か足を運んで話を聞く機会があったが、聞くたびに成長され凄いと毎回思う、助けられていることを「お互いさまです」とハッキリ言い切れる今井さんは流石です
- ・ 障害のある方が戦力として活躍していること、それが出来る環境を作っていただいていること
- ・ 障害者雇用を始める時の用意、手順、コンサル活用方法、考えるべきこと、途中での再構築方法、軽度の人に対する支援方法など
- ・ 障害を持っている方がどのように仕事をされているか
- ・ 障害のある方の仕事のやり方、理解のある会社があることに気付いたこと
- ・ 清掃のポリッシャー等
- ・ “共生”は不可能ではないと思った
- ・ 障害者就労の実際

- ・ 職場がどう思っているか
- ・ 就労者の状況が聞けて良かった
- ・ 障害の重さに関わらず、本人の頑張りが仕事に実を結ぶことができるという実体験は聞いていても励みになった
- ・ 生き生きと仕事をしているところと支援者との信頼関係がしっかりしているところに興味を持った
- ・ どんな風に障害を明らかにして働くか
- ・ 就労者、職場担当者、支援者、それぞれの方々の生の声を聴いて大変良かった
- ・ 知り合いが話をすると聞いたから
- ・ 本人と職場の方が“共生”していく方法、やり方
- ・ また、仕事をやろうと思う気持ちが出た
- ・ 本人（当事者）の発表
- ・ 実際の作業内容
- ・ 支援者の方々の相談支援の取り組み
- ・ 実際に、障害をもちながら、お仕事を続けられている方のお話を聞くことが出来て心に響いた、企業側の取り組みも興味深く話を聞くことができた
- ・ 仕事の内容、企業の対応、本人との関係性、などに興味を持った
- ・ 雇用者と被雇用者側、両方の声が聞ける形になっているところ
- ・ 就労に対しての心構え
- ・ 就労者、職場担当者、支援者、それぞれの方々の生の声を聴いて大変良かったと思う
- ・ 周囲のサポートにより、勤務者の能力が伸ばされる事
- ・ SST で行っている訓練について関心を持った
- ・ 個人だけでなく、企業にとっても障害者雇用が優位に働くことがわかってよかった
- ・ 一般企業で働く障害者の方の働きぶり、業務内容等
- ・ 障害者雇用について
- ・ 障がいを持つ方自身の働きぶり、考え方について直に聞くことができて参考になった
- ・ 障害のある方々が心地よく働くためにはどうすれば良いのか
- ・ 文京区内の障がい者を雇用している会社の取り組み
- ・ 雇用している側の配慮の内容、障がいを持つ当事者の保護者の気持ち、幻聴が起きた時の他の社員の対応、障がい者雇用における支援機関の役割
- ・ お二人とも「リフレッシュ」を大切にされていたので、仕事だけではない生活全般のバランスを保つことの大切さ、またその支援に目を向けることができた
- ・ 障害をお持ちの方がお話しされていた、就労のために努力していること、モチベーションの保ち方などに興味を持った
- ・ 当事者の働くことに対しての気持ちや、職場の周りの人の理解が興味深かった
- ・ 障害のある人が働く職場環境や職種について
- ・ 実際に働いている方、受け入れている方、サポートしている方、それぞれのお話が聞けて良かった

【良かった】

- ・幻聴の対処法が聞けて良かった
- ・精神障害のある方の就労の実際を知ることができた
- ・障害者でも社会で役に立つというところ
- ・職業について
- ・最初の方の勤めている会社がとても気配りの行き届いている場所のようで、少し世の中に対し希望が持てた
- ・障害者の就職について
- ・第2部で保護者からの手紙があり、お子さんの障害を受け入れるまでの気持ち、年老いていく親の子供の将来への不安等、親としての気持ちはいかなものかと
- ・実際に就労している今井さんの気分転換法が聞け、良かった
- ・良かったと思う
- ・パワーを感じた
- ・银杏企画のメンバーの、話を聞かせて貰い興味を持った
- ・障害者本人の話
- ・職場の方々と普段どのようなコミュニケーションを取っているかに関心があった、今回それを知ることが出来て、良かった

【普通】

- ・動物関係の、仕事に付けたらって興味を持った

【無回答】

- ・精神障害者の雇用、SSTをやったということ
- ・幻聴があるのに明るく働いているのは凄い、東京ドームの掃除をしてお客様が感謝していると思う

Q4：このフォーラムに参加して感じたこと、ご意見などをお聞かせください。

【大変良かった】

- ・今井さんとさか本さん達の信頼関係を感じ取った
- ・当事者の参加が多いように感じたが、その方々にとって現実味のある内容であったかは疑問だった（あまりにも理想的な事例2つであったため）
- ・職場の方々とご本人の良好な関係がとても大切だと感じた
- ・今井さんの元担当者として、とても誇らしく、嬉しい気持ちだった
- ・障害者の方々の努力の熱意が高いことがわかった
- ・生の声が聞けてよかった
- ・働くことについての情報を知る機会が障害者自身、周囲の人ともに少ない

- ・生き生きとお仕事をされているご様子を知ることが出来て大変良かったと思う、障害のある方々にこのような機会（職場）が増えることを願っています
- ・“配慮事項”があるとはいえ、“戦力”として就労しなくてはいけないことは厳しいと思った
- ・健常者にとって障害者はいやしになっている事が生きてても良かったと思った
- ・障害のある方の就労についてイメージができた
- ・コロナ禍以降、実に5年ぶりの対面開催だったそうで、お陰様でLIVE 感覚を味わえて大変何よりだった
- ・障害を持っていても就職しているところを見られてよかった
- ・障害のある方の理解が深まる意義のある会と思う
- ・第1部での話は現在B型に通所して就職を目指す人にはとても心強い体験談として凄く興味深く聞かせてもらった、第2部では一生懸命に（何事も）頑張っ取組む事の素晴らしさや努力されている事などがとても伝わって、私も頑張ろうと思直した
- ・色々な仲間の方が参加して働く意欲ができる機会があって良いと感じた
- ・障害者も当たり前働くことが更に発展してほしいと思う
- ・障害があるにも関わらず、とても努力して働いている様子が伝わってきて感動した
- ・自分も障害があるので仕事をする時の参考になった、就職を目指しているのもとても参考になった、頑張っ、就職してみせす
- ・みんなが頑張っていると思った
- ・一生懸命に今井さんと成田さんがお仕事されているのがよく分かった、勇気をもらった
- ・こうして沢山の方に就労移行支援の取組、働いている方の話をきいていただく機会があることを本当に嬉しく思う、主治医の方の話を聞くことができ、社長や上司からのコメントがあっ、今井さんは会社に必要とされていることが分かってとてもよかった
- ・やはりサポートする人数に、余裕がないと業務を終わらせる事が難しいということ、一法定雇用率企業の基準がわかった、本日講演を参考に、日頃からサポートする事ができれば良いと思った
- ・当事者の生の声が聞ける機会に初めて参加をして、実際の職場状況を理解することができた
- ・一般企業で働く障害者の方のお話を聞くことは普段できないことなので大変ためになる時間となった
- ・障がいのある方の雇用の実態を知ることができてよかった
- ・同じような企画をしていただきたい
- ・質問等からまだ障害のある方への対応は完備されていないことが実感できた、しかし、お話して下さった方の職場では、きっかけは雇用率であろうとも障害のある方と向き合っ働いていることが感じられた
- ・動画や写真資料は雰囲気はわかり大変良いのですが、視覚障害のある方にはその時間が空白になってしまうので残念そうなご様子があっ、第2部のように説明をしていただけると良いなと思った、障害のある方でもその人の得意を活かして活躍する姿がとても素敵だった
- ・実際に働いている障がい者の声や実情を知る機会がなかったのも、今回のフォーラムに参加してよかったと感じる、作業内容やその製品を実際に見ることができて良かった

・障がい者雇用にあたり、当事者が安心して働けるように sst を行うような定着支援という支援機関のサポートを受けていたり、雇用契約を結ぶ前には見学や体験があったりなど、段階があることを知ることができて良かった。また、障がいの特性が生かせる仕事も沢山あると思うので、そのような仕事を担っている雇用主は、法定雇用率の基準を超えることを目安に積極的に多様な人材を採用し、多様性社会が促進されて欲しいと感じた

・学生時代に障害者雇用について学んだ、あれから 20 年、じわじわと雇用が広がっているのだなと感じた、銀杏企画さんの切れ目ない支援、またみなさん同士の横の繋がりも素敵だと思った

・企業の方、事業所の方、障害を持ちながら就労されている方、それぞれみなさんの努力があり、就労が継続できているのだと改めて感じた

・我が子が知的障害です。中 1 ですが、将来どのような就職先があるのか全く想像がつかず…職場に届いたチラシを偶然見て、参加しました、何年も前からこのようなフォーラムが開催されていることを初めて知りましたし、自分の住んでいる区にもどのような取り組みがあるのか調べてみようと思いました。今回の講演会で、当事者・支援者・就職先の方の話が同時に聞けてとても興味深かったです。また、質疑応答の内容も参考になりました

・まだ障害雇用が始まって若い企業で働いている方々のお話を聞けて大変有意義な時間でした、これから数年経ったあとの状況や発展などまた聞く機会がありましたら、嬉しく思います、本日はありがとうございました

・制度が整ってきていると感じた

・知的障害のある息子がいます。今はまだ 10 歳ですが、この先どんな道があるのか、親として知識や選択肢をたくさん持っておけたらいいなと思って参加しました、障害当事者やそのご家族の努力は言うまでもなく、職場の皆さんの「障害特性を知る」努力が素晴らしいなと思いました。障害特性を持ちながらも、自分らしく働き、地域社会の一員として前向きに生きられる世界になればいいなと感じました

【良かった】

・生活リズムが出来て、働くことが苦ではなくなり、楽しく出来たらいいなと思う

・立派に働いている様子を知り、よかった

・頑張っている

・良かった点：もっと堅い雰囲気のかかっていたので、ほんわかして驚いた、悪かった点：会場としてのスクリーンの大きさが小さすぎた

・一般でも同じでしょうが、障害者雇用も、雇用する側、される側、共に一期一会の経験であり、お互いにとってよりよい関係で仕事ができるのは理想ですが、よりよいトライアンドエラーを通じて良い関係性がつくれたらありがたいなと思う、すばらしいフォーラムでした、ありがとうございます

・もっと障害者が安心して仕事出来る場所が増えたらいいのと思う

・質問をされる方が同じ障害を持っている方が多く、就労に対して様々な思いがあること、ご自身が苦しんでいることをどう解決していったら良いか、糸口を探していることが伝わってきた。ご家族も含め、皆さんが幸せな日常を送れると良い

・障害があっても「戦力」になれると希望が持てた

- ・よかったと思う
- ・楽しかったと思う
- ・コロナの時期もありながら就労をした話を聞いて大変な次期に就労ができたんだなあと感じた
- ・障がい者の理解に繋がった、ありがとうございました
- ・もっと、障害者が安心して仕事の出来る場所が増えたらいいなと思う

【普通】

- ・コミュニケーションや、報告連絡相談が上手く出来るように、体力も付けたい

【無回答】

- ・幻聴があるのに働いていてすごい

Q5：今後聞いてみたいテーマがございましたらお聞かせください。

【大変良かった】

- ・特になし
- ・担当の職員さんとの繋がりを詳しく聞きたい、社会と障害者の繋がりを聞きたい
- ・特になし
- ・機会があれば、また、たくさん話を聞いてみたい
- ・グループホームのこと
- ・障害を持って老後をどう過ごしていくか
- ・発達障害の人のフォーラムがあったら聞いてみたい（統合失調症の人の話は良く聞くが、発達障害に関することは全くと言ってもいいほどないから）
- ・日常生活の過ごし方
- ・ハローワークの障害支援窓口担当者の取り組み
- ・色々な社会資源を上手にを使って、地域で生活をしている方の話やインフォーマルな社会資源を上手に使っている生活のヒントとなるような話が聞いてみたい
- ・しょうがいしゃの出来る仕事の主内容や、サポート方法等
- ・子育て支援について
- ・障害をお持ちの方を雇用する際の従業員に対する伝え方、研修方法を更に知りたいと考えました。
- ・知的障害の人は一つのことに集中することを得意とする方が多いという話しはよく聞きますが、そうでない人や、感情のコントロールが難しい方の働き方も気になります

【良かった】

- ・精神障害者の気分転換法を沢山聞きたい
- ・特に思いつかないが、機会があれば参加したい
- ・障害者の方が地域で暮らすコツ（一人暮らしする時や、地域住民の方との関り、生活のコツなど）
- ・今後のこと

- ・働きながら就職活動をしている人の話を聞きたい
- ・障害者への配慮義務について

【普通】

- ・もっと集中力が必要で、今の自分にはまだ。先だけど。努力して就職に付ける様にしたい

【無回答】

- ・精神障害者の雇用

令和6年度文京区

障害者地域自立支援協議会 全体会のご案内

☆開催目的

文京区では、地域の障害者等を支援する方策を総合的に推進することを目的に、文京区障害者地域自立支援協議会を設置し、地域の関係機関によるネットワーク構築の推進を図っております。

自立支援協議会の周知や部会間連携の充実を図るため、全体会を開催します。



☆内容（予定）

- 1 自立支援協議会全体会の趣旨説明
- 2 区の現状・制度説明
- 3 専門部会より活動発表
- 4 障害当事者部会発表



「障害のある方の暮らしと防災」

- ・障害当事者部会活動発表
- ・防災体験について
- ・グループホームでの暮らし

- 5 トークセッション

◆日 時

令和7年2月17日(月)
午前10時～12時30分

◆場 所

文京区民センター2A

☆ 申込方法 ☆

QRコードまたはお電話からお申込ください

提出先 文京区障害福祉課障害福祉係

TEL 03-5803-1211



就労選択支援事業について

令和6年度第3回就労支援専門部会

令和7年2月6日（木）
文京区障害者就労支援センター

就労選択支援事業の勉強会・情報交換会

企画実施

協力：明星大学 縄岡准教授

都内の障害者就労支援センター・障害者就業・生活支援センター・特別支援学校・行政担当部署

第1回目 令和6年11月6日	島根県松江市	社会福祉法人桑友 松江障害者就業・生活支援センター ぷらす 理事長 青山 貴彦 先生
第2回目 令和6年12月23日	北海道釧路市	社会福祉法人釧路のぞみ協会 くしろ・ねむろ障がい者 就業・生活支援センターぷれん 高谷 さふみ先生
第3回目 令和7年1月17日	香川県	高松大学発達科学部 子ども発達学科 山口 明乙香先生 かがわ総合リハビリテーションセンター 就労支援科長 六車 浩 先生
第4回目 令和7年3月17日	東京都	都内就労支援センターや特別支援学校より、現状の取り 組み状況をお話し頂く(予定)

地域における納得感のある仕組みづくりの必要性

- ・地域全体で統一した認識や連携体制が十分に整っていないと、利用者の「取り合い」のような不本意な状況が発生する恐れがある。

サービス利用開始までの時間的ロス

- ・就労継続支援A型・B型の利用開始までに、従来よりも手続きや調整に時間がかかる恐れがある。

しっかりと準備をしていないと大変なことになる

支援内容・相談先に関する混乱

- ・計画相談や就労選択支援事業、就労継続支援（A型・B型）など、各制度の役割や相談先が十分に理解されていないケースがある。
- ・どこに何を相談すべきか分からないといった混乱が生じることで、適切な支援開始が遅れてしまう可能性が高まる。

支援員のスキルやアセスメントの質のばらつき

- ・支援員の経験や専門性、アセスメントの手法・内容に差異があるため、支援の質にばらつきが生じる可能性がある。
- ・地域や事業所間での情報共有やスキルアップの取り組みが求められる。
- ・直接的に関係するのは特別支援学校・A型・B型だが、就労選択支援員に求められる情報は、就労支援センターやナカポツ、就労移行支援事業所がノウハウを持っている難しさがある。

まず何を確認する必要があるか

【就労選択支援導入に際して確認すべき主な項目（案）】

1. 過去5年間ににおける就労継続支援B型の新規利用者数

地域内のニーズや利用状況を把握し、今後のサービス提供体制を検討するため。

2. 特別支援学校の卒業生・在校生の人数

将来的な利用見込みを把握し、支援体制や受け入れ可能人数などを検討するため。

3. 就労選択支援事業の指定予定事業所

4. 文京区では、特別支援学校の生徒に対し、就労選択支援事業の利用が「必須」となる時期はいつからか

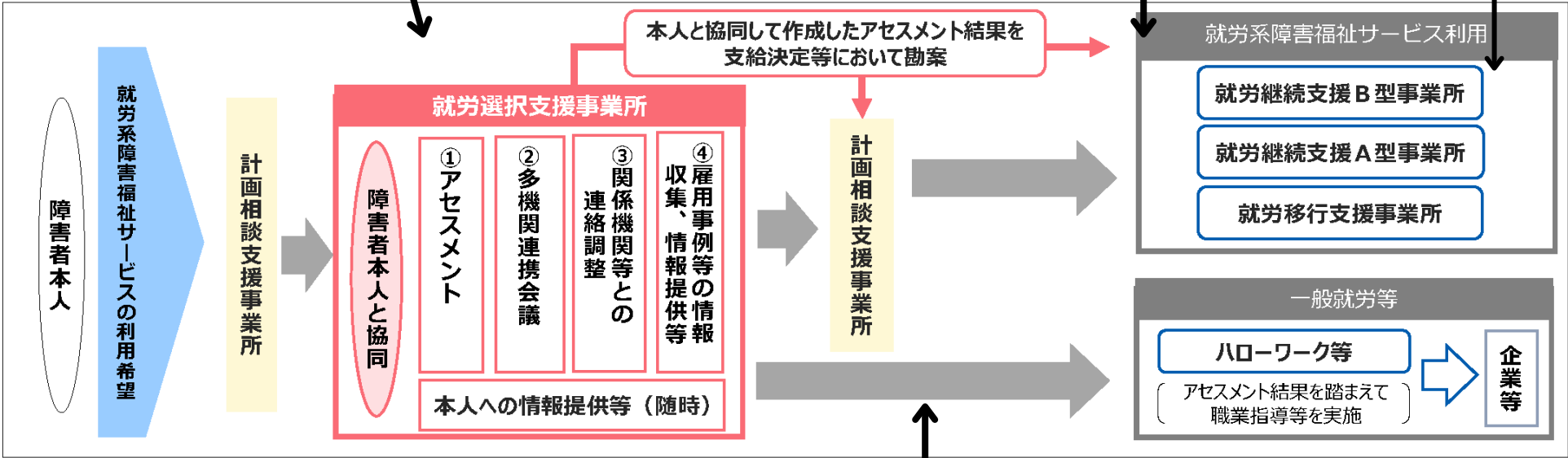
制度理解・周知不足

アセスメントの見える化

就労系障害福祉サービス利用決定までの時間

体験利用のタイミング

就労選択支援のアセスメント結果を個別支援計画へどのように活かせるか



33

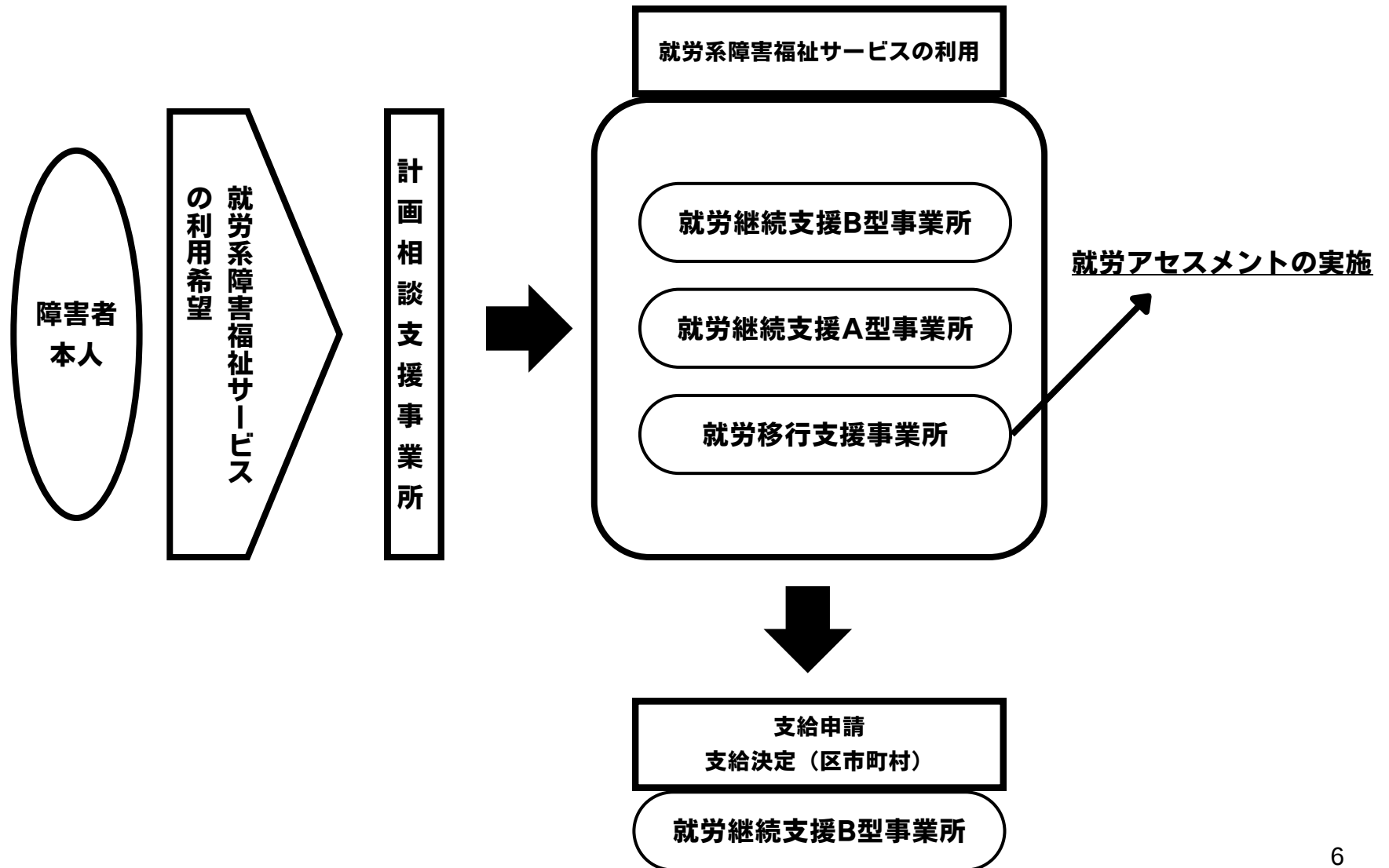
計画相談の利用開始までの時間

セルフプランの場合、就労選択支援事業終了後の手続きの流れ

知的障害者にもわかりやすい情報の提供
本人の「自己決定」を促す適切な意思決定支援スキル
公平性のある地域情報の提供をささえる資料や素材の整理

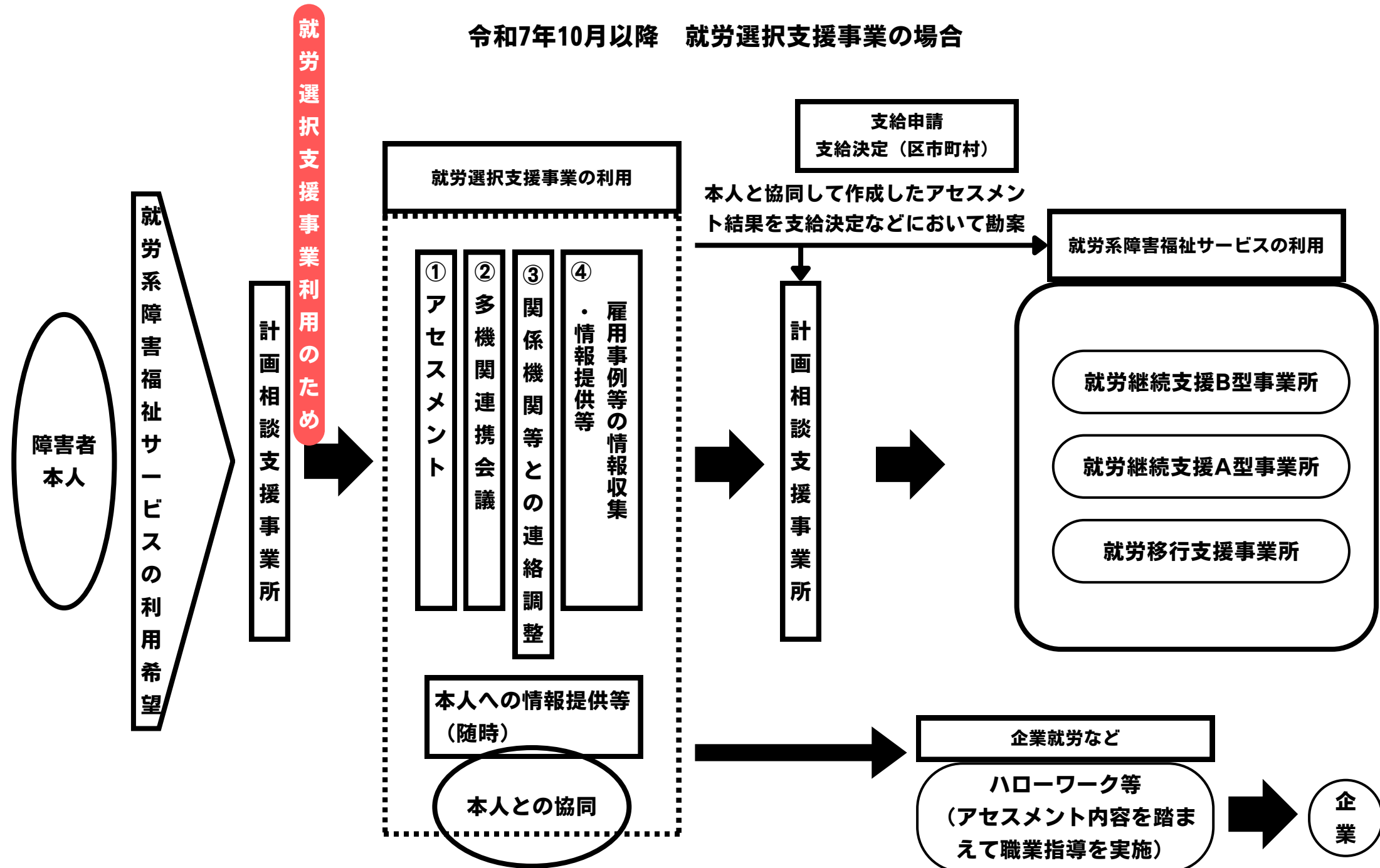
これまでの就労アセスメント（直B）と就労選択支援の違い

現行（就労アセスメント（直B）の場合



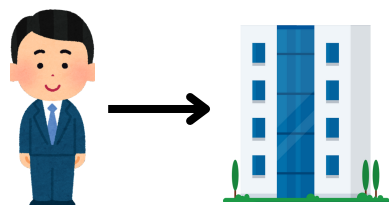
これまでの就労アセスメント（直B）と就労選択支援の違い

令和7年10月以降 就労選択支援事業の場合



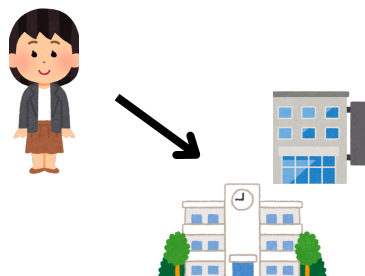
就労選択支援事業のアセスメントパターン

就労選択支援事業における作業場面のアセスメントを行う場合の利用パターン



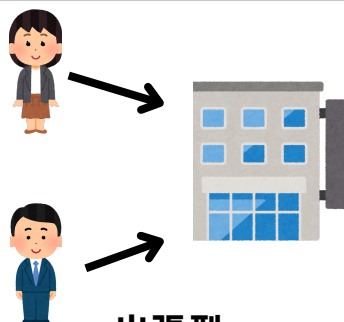
通所型

本人が就労選択支援事業所へ通所し、作業場面のアセスメントを行う



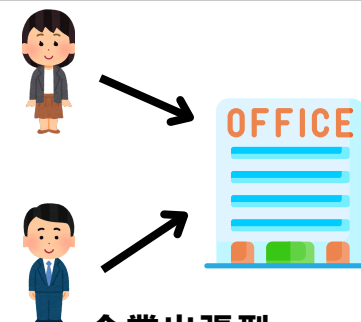
訪問型

本人が在籍している特別支援学校・就労系事業所・デイケアなどに訪問して作業場面のアセスメントを行う



出張型

本人・就労選択支援員が、就労系事業所へ訪問して作業アセスメントを行う



企業出張型

企業へ訪問して作業場面のアセスメントを行う

その他



本人



就労選択支援員

就労支援専門部会・ワーキンググループ（WG）・就労支援者研修会について

文京区内の、どの就労選択支援事業所、誰に相談をしても質の高い就労のアセスメントが受けられる地域を目指して。

就労支援専門部会 年3回予定

地域の課題を整理し、WGで優先的に取り組む内容を検討する

検討内容(案)

就労選択支援事業について、本人・家族・地域企業・学校・医療機関など多方面への周知と理解促進の方法を検討する。
(チラシ・Q&Aなど)

ワーキンググループ（WG）年10回～12回程度予定

優先的に取り組む内容を具体的に検討・実行する“実働部隊”

就労支援者研修会 年4回予定

現場支援者向けのスキルアップ、情報交換の場

ワーキンググループ（WG）年10回～12回程度予定

優先的に取り組む内容を具体的に検討・実行する “ ” 実働部隊”

検討内容(案)

1. 就労選択支援フロー・連携プロセスの具体化を検討する

- ・「就労選択支援」利用前後の流れを地域仕様に落とし込む・フローの整理と確認。

2. 地域の状況にあった標準アセスメントシート・評価手法の整理

- ・厚労省が示す標準シートの内容・BWAP2など確認し、地域の実態に合った形にカスタマイズ。
- ・区内事業所で扱う共通のアセスメントシートやフィードバックシートを作成する。

3. モデルケースの実施と検証

- ・協力する事業所や企業を募り、短期的に「就労選択支援の試行」を実施。
- ・実際に利用した当事者や支援者の声を集め、問題点と改善策を整理する。

4. 文京版・就労選択支援マニュアルの作成

- ・導入プロセスや担当者の役割分担、ケース会議のテンプレートなどをまとめた簡易マニュアルを作る。
- ・本人向けパンフレットや事業所向けの手引きも必要に応じて作成。

5. 研修会カリキュラムの検討・協力

- ・研修会で取り上げるテーマ（アセスメント、ケース会議、アフターフォローなど）を検討する。
- ・実践的なワークショップや研修の場の企画。

就労支援者研修会 年4回予定

現場支援者向けのスキルアップ、情報交換の場

検討内容(案)

1. 就労選択支援員に必要な実務的なスキル向上を目指す

・標準アセスメントシートの記入・活用方法、面談のポイント、ケース会議の運営、企業との調整方法などをテーマにした研修を実施。

・WGで作成したマニュアルやチェックリストを使って練習し、参加者からのフィードバックをWGへ。

2. 成功事例・失敗事例の共有

・事業所からアセスメント事例の発表してもらい、うまくいった理由・困った点・工夫などを共有。

・他地域のモデル事業や先駆的な取り組みを紹介し、具体的な運用イメージを広げる。

3. 情報交換と意見交換の場

・アセスメントに関する困り感や疑問など、参加事業所同士の情報交換・相談が行える場にする。

・「利用者が就労選択支援を経てA型、B型に進むケース」の流れを検討し、連携のコツを話し合うグループワークなどを検討する。

4. 地域課題への提言・WGへのフィードバック

・研修会に参加した支援者が日々の業務の中で感じた課題やアイデアを集約し、WGへ共有。

・WGで作成した試作ツールを試行し、協働で実務の改善を進めるなど。